文学的文章 場面・状況の捉え方

（ある日学校から帰った孝次は、母から、家を訪ねていた旧家の娘・幾子を蜜柑畑に連れて行き、蜜柑をもいでやるよう言われました。）

土間の暗さに慣れた孝次の眼には、その時、※セルの着物に※メリンスの兵古帯をしめた八、九歳の大人しい少女の姿が映っていた。そしてその少女の、顔の割にひどく大きい眼が孝次を見上げた時、孝次は堪まらない気恥ずかしさに襲われた。なぜか、この少女と並んで裏山の蜜柑畑へ登って行くことは自分には難しい仕事のような気がした。

「行くべえや。俺ももいでやらあ」

その時孝次と一緒に学校から退けて来て、まだ其処に居た兵太郎が背後から声をかけた。

兵太郎のその言葉で孝次は、

「ざるへいっぱいもぐんかい」

と母親の方へ声をかけ、幾子の方は見向きもしないで土間を飛び出した。

孝次は兵太郎と並んで丘陵の斜面を登って行った。一度も背後を振り向かなかった。しかし地面を敲く小さい草履の音が、直ぐ自分の背後で聞えているのを、彼は両の耳を大きくして聞いていた。

蜜柑畑は、入江に面した丘陵の斜面を覆って見遥かすように拡がっていた。孝次の家の蜜柑畑は丘陵の背に近いところにあって、その場所柄のためか、村の沢山の蜜柑畑の中でも毎年色づくのが一番早いので知られていた。

孝次と兵太郎は、同じ一本の蜜柑の木に攀じ登った。そして黄色く熟れた果実を鋏で切った。ちょきんと鋏の音がすると蜜柑は木から離れ地面に落ちた。

（井上靖『晩夏——少年短篇集』中央公論新社 所収「蜜柑畑」による）

※セル＝薄手の毛織物。 ※メリンスの兵古帯＝薄く柔らかい織物で作った子供の帯。

場面・状況の読み取り

文学的文章は、時・場所・登場する人物が変わる箇所に注目し、場面に分けながら読むとよい。場面を捉えることで、物語の展開や登場人物の心情の変化が読み取りやすくなる。

・いつ（時代、季節、時期、時刻）
・どこで（登場人物がいる場所、出来事が起きる場所）
・だれが（どんな人物が登場しているか）
・どうした（何をして、何があって、結果どうなったか）

また、場面が変わったときは、まずはその場面の状況を理解することが大切である。

・「いつ」「どこで」の出来事が描かれているか。
・「だれが」その場面に登場し、人物の設定や人物どうしの関係はどう描かれているか。

※「　」内の文（会話文）とそれ以外の文（地の文）で、登場人物の呼び方が異なる場合があるので整理しながら読む。登場人物が多い場合は相関図などを作りながら読み進めるとよい。

例題

場所の変化に注目して本文を分けたとき、蜜柑畑に向かう場面はどこから始まっているか。その最初の五字を答えなさい。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 孝次がいる場所を、本文の流れに沿って並べ替えなさい。

ア 丘陵の斜面　**イ** 土間　**ウ** 蜜柑畑

〔　→　→　〕

(2) 本文の状況を正しく述べたものを選びなさい。

ア 兵太郎は孝次から一緒に来るように頼まれ、蜜柑畑に行くことになった。

イ 幾子は土間の場面では登場せず、蜜柑畑の場面ではじめて登場する。

ウ 孝次と兵太郎は並んで丘陵の斜面を登っていき、蜜柑畑では同じ木に登った。

〔　〕

(3) ――線部「彼は両の耳を大きくして聞いていた」とは、誰のどのような様子を表しているか。適当なものを選びなさい。

ア 孝次の、後ろについてきている少女が気がかりな様子。

イ 孝次の、蜜柑畑に行かなければならないことに反発する様子。

ウ 兵太郎の、少女が斜面を登れるかどうか心配する様子。

エ 兵太郎の、後ろを見ようとしない孝次に困惑する様子。

〔　〕